学び舎中学歴史教科書

# 授業づくり通信

2023年７月発行　第2号

イギリスの旅
①クロムフォード・ミル
②マンチェスターシップ運河とブリッジウォーター運河の交差
③トワイニング本店

## 目　次


● 読んで楽しい、問いが生まれる、対話がはずむ　編集部　2，3
● 問いが生まれる授業づくりのヒント　編集部　4，5
● 学び舎教科書を使った授業実践
『洛中洛外図屏風』の小川通りをくわしく見てみよう　平野　昇　6，7
● 研究者が語る学び舎教科書
世界大の歴史を背景にした具体的な日本中世の歴史像　保立 道久　8
歴史が動くー 声が聞こえる　大日方 純夫　9
● 中学歴史的分野を「歴史総合」につなぐ
イギリス産業革命ー ネットでバーチャル旅行　鳥塚 義和　10，11


学 び 舎

学び舎中学歴史教科書

# 授業づくり通信

2023年７月発行　第2号

イギリスの旅
①クロムフォード・ミル
②マンチェスターシップ運河とブリッジウォーター運河の交差
③トワイニング本店

## 目　次


● 読んで楽しい、問いが生まれる、対話がはずむ　編集部　2，3
● 問いが生まれる授業づくりのヒント　編集部　4，5
● 学び舎教科書を使った授業実践
『洛中洛外図屏風』の小川通りをくわしく見てみよう　平野　昇　6，7
● 研究者が語る学び舎教科書
世界大の歴史を背景にした具体的な日本中世の歴史像　保立 道久　8
歴史が動くー 声が聞こえる　大日方 純夫　9
● 中学歴史的分野を「歴史総合」につなぐ
イギリス産業革命ー ネットでバーチャル旅行　鳥塚 義和　10，11


学 び 舎

# 読んで楽しい、問いが生まれる、対話がはずむ

2021 年から施行された学習指導要領は、「主体的・対話的で深い学び」を掲げています。主体的な学習は、生徒の関心を引き出す魅力的な教材との出会いから始まります。観察して発見や疑問がたくさん出る図版や、読む人を歴史の舞台に引き込む生き生きとした記述から、自ら感じ、考える主体的な学びのエンジンが始動します。

## 予想される生徒の疑問や問い

「なぜ一遍を肩ぐるましているのか」

「札にどういうことが書いてあるの？」

「どんなステップ？」「歌はあった？」
「建物の下になぜ子どもがいるの？」
「牛車に乗ってきたのはどんな人か」
「左はじの良く見える席は有料か」

「16 年間もの旅で泊まる所や食事はどうしたのだろう」

「極楽浄土とは何？」

「旅に加わった尼はどんな女性たちか」
「どんな病気の人たちだろう」

「この少年も琵琶法師なの？」

「5 年の戦争で死者はどのくらいか」
「なぜ幼い子どもを殺したの？」

「餓死した人はどのくらいか」

1 念仏を唱えながらおどる僧たち〈『一遍上人絵伝』東京国立博物館蔵〉

2 念仏札

3 念仏札を配る一遍〈『一遍上人絵伝』東京国立博物館蔵〉

## (5) おどる聖と念仏札 —鎌倉時代の仏教—

南無阿弥陀仏と唱える教えはなぜ広まったのか。武士はどんな文化に接しどんな信仰を深めたか。

### 一遍たちの旅

時宗を開いた一遍は，13 世紀後半，九州から東北地方まで 16 年間にわたって旅をし，出会った人たちに念仏札を配りました。「南無阿弥陀仏と唱えて，阿弥陀仏にひたすらすがりましょう。阿弥陀仏はすべての人を救い，極楽浄土へ導いてくださいます」と，念仏をすすめました。

一遍と弟子たちは，町に入ると，鉦や太鼓を打ち鳴らし，念仏を唱えながらおどります。何だろうと，大勢の人たちが集まってきました。おどり念仏は信者たちの気持ちをまとめ，見る人をひきつけました。

この時代には，男女いっしょに修行するのはめずらしいことでしたが，一遍の旅には，多くの尼たちが加わりました。貧しい人たちや，重い病の人たちもいました。性別や身分，貧富のちがいをこえて，すべての人が救われるという教えは，人びとの心をとらえていきました。

4 琵琶法師〈『慕帰絵詞』国立国会図書館蔵〉

### おそろしい地獄の話

5 年におよぶ源平の内乱では，多くの命が失われました。同じ一族が，敵味方に分かれて戦い，負けた側では，幼い子どもまでが殺されることもありました。源平の戦いと人生のはかなさをえがいた『平家物語』が，琵琶法師によって語られ，広まりました。

戦乱のなか，西日本では大ききんが広がり，多くの人が餓死しました。大きな火事や地震も，たびたびおこりました。鴨長明は，ききんや災害で苦しむ人びとのありさまを，随筆集『方丈記』に書いています。このようななかで，極楽や地獄をえがいた絵や話が広まりました。生きてい

5 『平家物語』敦盛の最期の場面／熊谷直実は，一騎打ちの相手が，わが子と同じ年ごろの少年だと気づいた。助けようとしたが，味方が近づいてきたため，泣きながら首を取った。〈『小敦盛』国文学研究資料館蔵〉

064

## 第３章(5) おどる聖と念仏札・生徒の活動例 （教科書 p.64-65・指導書 p.84-85）

・図版1 3 に、どのような人たちがいるか観察し、わかったことや疑問を出しあおう。
・一遍はなぜ念仏札を渡す旅をしたのだろう。念仏札をもらった人はどんな気持ちになっただろう。
・『平家物語』「敦盛の最期」は、どうして多くの人びとをひきつけたのだろう。
・図版6 の絵解きをして、感想を出しあおう。人びとはなぜ地獄の話を恐れたのか。
・武士の信仰はどのようなものだったかキーワードをあげてみよう。どうして武士に広まったか。
・囲み「大仏再建の熱狂」を読んで、奈良時代の大仏建立(p41)と、どんな点がちがうだろう。
・なぜ新しい仏教が生まれ、人びとの間に広まったのか、自分の考えを書いてみよう。

6 餓鬼をえがいた絵（「餓鬼草紙」京都国立博物館蔵）

たときのおこないに応じて，さまざまな地獄に落ち，はてしない苦痛を受けるという話は，人びとをおそれさせました。

仏教の僧たちのなかで，新たな心のよりどころを求める動きが強まりました。法然は，念仏を唱えれば，極楽浄土に往くことができると説いて浄土宗を開きました。この教えは，弟子の親鸞が説いた浄土真宗（一向宗）とともに，地方にも伝わっていきます。安房国（千葉県）の海辺の村から出た日蓮は，法華経の題目「南無妙法蓮華経」を唱えれば，国も人も救われるとして，信仰を集めました（日蓮宗）。

### 武士の信仰と文化

武士が地方の政治の責任を負うようになったため，武士も教養や信仰を深めました。吉田兼好の随筆集『徒然草』には，連歌をよんだり，管絃（楽器）を楽しんだりしている東国武士の姿が語られています。

栄西が中国から伝えた，座禅を組んで悟りを求める禅宗は，13世紀に北九州から広まり，鎌倉武士の間でさかんになりました。中国から禅宗の僧が招かれ，また，日本の僧が中国にわたって禅宗を学びました。

道元は，越前（福井県）の永平寺にこもって，きびしい規律を守り，ひたすら座禅の修行をする教えを説き，弟子を育てました。

**禅宗の寺**
栄西を開祖とする臨済宗，道元を開祖とする曹洞宗がある。

7 建長寺（神奈川県鎌倉市）／1253年，執権・北条時頼が宋の蘭渓道隆を招いて創建した。

8 東大寺南大門・金剛力士像（吽形）／高さ8.4m，運慶がチームをひきいて制作した。（東大寺）

**— 大仏再建の熱狂 —**

源平の内乱のとき，東大寺の大仏とおもな建物は，平氏によって焼き討ちされ，失われた。これを再建するために，重源は，貴族や武士だけでなく，庶民にも「一粒半銭（わずかな米と銭）」でもいいからと，広く寄付をよびかけた。

諸国から資材を集め，宋の技術者の協力もあって，大仏は1185年に再建された。開眼の儀式は，大仏を一目見ようと集まってきた人びとであふれた。大仏に目を入れる大きな筆には，700mにおよぶ紐12本がむすばれ，たくさんの人がそれをにぎった。寄付の代わりに，腰刀を舞台に投げ入れる人もいたという。大仏は戦乱の世が終わり，平和な時代となった象徴だった。

065

「火のなかで何をしているの？」
「何をして地獄に落ちたのか」
「赤い衣を着た人はだれ？」
「空にいる人たちはだれ？」

「他にどんな地獄があるのだろう」
「地獄はだれが考えたのか」

「法然、親鸞、日蓮はどんな人？」
「一遍とどこが違うのか」

「何階建てくらいの高さか」
「宋から来た僧はどんな人か」

「厳しい規律を守ってひたすら座禅をすると、どんな良いことがあるのか」

「このころの人は筋肉がすごかった？」
「チームで力士像をどうつくったのか」

「大仏開眼の儀式には何人ぐらい参加したのか。だれでも参加できたの？」
「700mの紐は庶民もにぎれたの？」

# 問いが生まれる授業づくりのヒント

## 第１章（２）種が落ちないムギ　（教科書 p. 14-15・指導書 p. 42-43）

(2) 種が落ちないムギ ―農耕と牧畜のはじまり―

野生のムギとはちがう種子が見つかっている。農耕や牧畜がはじまり人びとの生活はどうなったか。

■西アジアの２つの住居跡

西アジアのアブ・フレイラ遺跡（シリア）では，年代が異なるいくつもの住居跡が，重なった状態で発掘されました。

１万 1000 年ほど前の住居からは，ガゼルなどの動物の骨と，草の実が見つかりました。その 700 粒のムギやマメなどは，野生のものと見られています。

これより新しい 8000 年前の地層からは，粘土のレンガを積んだ住居が出土しました。ここからは，栽培されたとわかるムギやエンドウマメなどの種が発見されました。動物の骨は，ヤギ・ヒツジのものが 80％をしめるようになっていました。この時期は，氷河期が終わってあたたかくなった気候が，また一時すずしくなっていったころでした。

■野生のムギから，栽培種のムギへ

自然にはえている野生のムギは，粒も小さく，みのると種が落ちて散ってしまいます。野生のムギを食べていた人びとは，集めやすく食料にしやすいものを選び出したことでしょう。

人びとが種をまいて育てるようになると，野生のムギにはなかった，いっせいに芽を出す性質も大切になりました。ムギの栽培を，長い期間つづけるなかで，人間につごうがよい性質をもつ栽培種に変えていきました。同じころ，野生のヒツジなどを飼いならし，牧畜もはじまりました。

アブ・フレイラでは，人びとが一定の場所に住むようになってから，農耕と牧畜中心の生活になるまで，3000 年以上の年月がたちました。

■世界各地で農耕と牧畜がはじまる

１万年から 5000 年ほど前に，世界のあちこちで農耕がはじまりました。野菜や果物，油をとる作物，せんいをとる作物もつくられました。

東南アジアでは，バナナやイモの栽培がはじまりました。タネが少ないバナナを見つけた人びとは，その芽や新芽を植えてふやしました。これらは，太平洋の島々やアフリカ大陸に広まりました。

中国では，9000 年ほど前に，湿地にはえていた野生のイネから，栽培種のイネがつくり出され，水田稲作がはじまりました。

アメリカ大陸では，5000 年ほど前に，トウモロコシが栽培されるようになりました。そのころのトウモロコシは，１本の実の長さが約 2.5 cm で，30 粒ほどのものでした。アンデスの高地では，ジャガイモの栽培がはじまり，毒をぬき，保存する技術も発達していました。

牧畜は，野生のヒツジやヤギを囲いに追い込んで生け捕りにし，子を産ませるところからはじまりました。牧畜は農業とともに発達しました。家畜のフンは作物の実りをよくしました。牛や豚は乳や肉が利用でき，子をふやしやすかったため，いくつもの地域で家畜にされました。

―文字の発明―メソポタミア文明―

メソポタミアの南部では，人びとは，水路を整えて水を引き，オオムギなどの収穫をふやした。穀屋物などをえるため，交易もさかんにおこなった。ウルク遺跡（イラク）からは，5200 年ほど前（紀元前 3200 年ごろ）の，絵文字がささまれた粘土板が多く発見された。絵文字は，くさび形文字となり，メソポタミアの各地で使われた。ウルクは，巨大な神殿を中心にした都市で，全長 9.5km の城壁で囲われていた。月の満ち欠けを観察して暦をつくり，鋤を添かして青銅器をつくることもはじまった。

| 絵文字 紀元前 3300年ごろ | くさび形文字 紀元前 2400年ごろ | 意味 |
|---|---|---|
| | | オオムギ |
| | | 水 |
| | | ヒツジ |
| | | つぼ |
| | | 敵・外国人 |
| | | 王 |

[1] 栽培種のムギ(さまざまな品種のもの)

[2] 栽培種のオオムギの穂と野生のオオムギの穂(岡山大学蔵　前田和義撮影)

[3] 発掘された野生のムギ(左)と栽培種のムギ(右)

[4] ガゼル

[5] 石ウスとすり石／ムギなどをすりつぶして粉にした。(アブ・フレイラ遺跡)

[6] 農耕のはじまりと広がり(ライアモンドとベルウッドが加筆による)

[7] 野生のバナナの花と実／1本の実の長さは10cmほど。

[8] 家畜の粘土像(8000年前～6000年前)(シリア　セクレ・アルアーイマル遺跡)

[9] メソポタミア・チグリス川とユーフラテス川にはさまれた地域をメソポタミアという。

[10] 絵文字からくさび形文字へ

014　015

**授業づくりの視点**

一粒のムギを手に取って、栽培を始めた人びとに思いを馳せます。栽培と牧畜は、人びとの暮らしや社会をどのように変えていくのでしょうか。遺跡・遺物をもとに時代のイメージを描きます。(文中、「○○○」は予想される生徒の発言、－○○○－は教師の言葉です)

**○人間にとってどんなムギが良いですか？**

―みなさんに小麦の種子を配ります。観察して思ったことを言ってください―

「米は家にあるけど小麦の粒は見たことがなかった」

「これが世界の主食」「硬い」「どうやって食べるの」

―小麦は硬いので粉にして調理しますね―

「教科書に石ウスとすり石の写真がある」

―人類は最初、野生のムギを食べていました。教科書の写真[2]で、左右どちらが野生のムギでしょう―

「それは右でしょう」「種子がそろっていない」

「種も野生のムギはすごく小さい(写真[3])」

―野生種をどんなムギにしたいですか、教科書も参考にしてグループで話し合いましょう―

「野生のムギはみのると種が飛び散る。集めやすいように種が飛び散らないムギにする」

「野生のムギの種を集めていっせいに撒いたらよい」

「見回りをして、種が落ちる前に計画的に刈り取る」

「食べるところが多い大きな種子にしたい」

「穂にぎっしりとみのるムギ」「虫がつかないムギ」

「病気にならないムギ」「すぐに育つムギ」「刈りやすいムギ」「おいしいムギ」「硬くないムギ」

―どうしたら、そのようなムギになるのでしょうか―

「収穫したムギのうち、長所のある種子だけまく」

「おいしいからといって全部食べない。おいしくないムギを食べて、おいしいムギの種を残す」

「おいしいムギに突然変異するのを待つ」

「１種類のムギだけにしない。１種類だと何かあったら全滅して食べるものがなくなるから」

―野生種が自ら種を落とすのは子孫を残すためです。今では多くの栽培種(写真[1])があります。右から２番目が古代小麦といわれるエンマー小麦です―

**○栽培と牧畜のはじまり、いつ、どこで**

―§１の西アジアのアブ・フレイラ遺跡から、栽培についてわかることを出してみましょう―

「１万 1000 年前のムギやマメ 700 粒は野生だった」
「野生のムギがもともとここに生えていた」
「8000 年前の地層からは栽培種のムギが出てきた」
「同じ場所で 3000 年の間に栽培が進んだ」
「気候が変化した」「新しい方法が必要だった」

―ヒツジやヤギの骨も出てきました。ヒツジはどのようなことに利用できると思いますか―

「肉を食べる」「乳」「乳製品」「毛から服」「皮も服に」「フンは肥料に」「角も何かに利用できそう」

―どんなヒツジが人間にとって都合が良いですか―

「おとなしくていうことを聞くヒツジ」「毛が長い」
「子どもをたくさん産む」「角は小さい方が良い」
「おいしい」「孤独を好まない」「じょうぶな体」

**野生種のヒツジ ムフロン**
©Oliver Abels ウィキペディア

**米国羊実験ステーションのヒツジたち**

**○栽培や牧畜によって、ムラの生活はどのように変わっていくでしょうか。**

―アブ・フレイラ遺跡に近いテル・ルメイラ遺跡の住居(4000 年前頃)の復元模型を見学しましょう―

学ぶ会ホームページ／TOP から「授業づくり・調べ学習のためのリンク集」にある古代オリエント博物館にアクセスし「オリ博バァーチャルミュージアム」をクリック→「シリアの発掘」コーナー

**復元住居** ©古代オリエント博物館

―台所で気がついたことや疑問をあげてみましょう―

「レンガの建物」「壁が塗ってある」「ドアは木だ」
「かまどがある」「パンを焼くかまどとパンがある」
「土器がたくさん」「大きな壺に粉が入っている」
「ビールをつくっていると書いてある。どの壺かな」
「ゲームがある」「生活に楽しみがある」
「何軒くらいのムラだったか」「ヒツジはいたか」

―隣の小さな部屋は何の部屋でしょうか―

「四角い土器が珍しい」「ぶどうが盛られている」
「左うしろのケースを見るようにと表示がある」
「二階建ての家の土器は祭祀のものと書いてあった」
「どんな神さまだろう」「何を祈ったのだろう」

**○ウルクはどんな都市だったでしょうか。**

―図 9 の地図でウルク遺跡、アブ・フレイラ遺跡の位置を確かめましょう。川を確認しましょう―

―教科書の囲みから、知りたいことをあげましょう―

「都市にはだれが住んでいたか」「何を交易したか」
「粘土板に何が書いてあったか」「青銅器は青いか」
「ムラにも暦があったか。暦をどのように使ったか」
「ムラの人たちはウルクをどう思っていたか」

―粘土板の多くが領収書や契約書でした。図 10 にくさび形文字があります―

―ウルクが城壁で囲われていたのはなぜでしょうか―

「戦いがあるから城壁をつくる」
「くさび形文字に『敵』がある」
「ムラの人たちも戦うのか」
「負けた側の人たちはどうなる」

**ウルクの粘土板**
労働者の給料明細。給料はビールで支払われていた。(5000 年前)

**授業のまとめ**
栽培と牧畜をするようになった西アジアの人びとにとって、うれしいこと、苦しいことは何だったでしょうか。想像して書いてみましょう。

■授業づくりに役立つ文献


・千葉保「ムギとブタ」『ともに学ぶ人間の歴史・授業ブックレット』№1、学び舎、2018 年
・遠藤雅司『古代メソポタミア飯』大和書房、2020 年
・古代オリエント博物館『古代オリエントの世界』山川出版社、2019 年

学び舎教科書を使った授業実践

# 『洛中洛外図屏風』の小川通りをくわしく見てみよう

平野　昇（元千葉県小学校教員）

第４章　＜歴史を体験する＞ インターネットで『洛中洛外図屏風』を見る（教科書 p. 104-105）

## １．小川通りをさがしてみよう

T：ここ（p. 104-105）は上京の小川通りというところです。屏風にも「こ川」という紙が貼ってありますね。みなさんも自分の PC を開いてこの場面をさがしてください。検索のしかたは、104 ページに書いてあります。

小川通りが見つかった人は、おもしろそうだなと思った人や建物などを見ていてください。

＜全員が小川通りを見つけられたか、確認してから＞

T:気になったことやおもしろいことを発表してください。

S1：真ん中の黒いのが「小川」かな。京都には人がたくさん住んでいて、川が汚れているみたいです。

S2：町の人もいるし、武士もいて、買い物したり歩いたりしています。けっこうにぎやかなところだと思います。

S3：川の向こう側には店が何軒も並んでいて、買い物している人がいます。

T：そうだね。商店が並んでいますね。この絵は、室町時代の終わり、16 世紀の京都のようすを描いたものです。この頃には、京都には店が並んでいる商店街のような所があったということがわかりますね。

商店ができてそこで品物が売り買いされる前、人々はどういうふうに必要なものを手に入れていましたか。

S4：物々交換かな。

S5：それだと、原始時代だよ。

S6：定期市というのがあって、そこで品物を売り買いしていました。

T:鎌倉時代にそうなった、と教科書にありましたね。思い出しましたか。

p. 67「市のにぎわい」を開いて、全国各地で定期市が開かれていたことを復習する。

T：定期市というのは、そう、開く日が決まっている市場のことだね。今でも、地名に四日市と五日市というところがあるって、勉強しましたね。

今日は、商店が並んでいるこの通りを詳しく見ていきます。PC だと、教科書の場面の左右や上下も見えるので、少し範囲を広げて見てください。どんな人がいるか、気になることがあるか、しばら

く時間を取りますから、自分で場面を動かしたり拡大縮小したりしながら小川通りとその周辺を見てください。気づいたことを記入する用紙を配ります。

**２．気づいたことー人物についてー**

S7：お店で品物を売っている人は女の人が多いみたい。

S8：店の外に出て魚を売りに来た人から魚を買っている女の人もいる。

S9：店番しながら夕食のおかずの材料を買っているんだと思う。

『洛中洛外図屏風』で他の場所を見ても、多くの店では女性が店番をしている。また、通りでいろいろな品物を運んでいる女性もいる。女性が京の商業活動に参加していることに気づかせたい。

S10：教科書（p.105）の「③天びん棒をかつぐ男」をアップしてみてみると、魚をのせています。上の人も魚を天びん棒にかついで持ってきているみたい。だから、この頃は魚屋という店はなくて、天秤棒でかついで売り歩いていたと思います。

S11:他にも天びん棒の前と後ろにかごみたいのをつけて歩いている男の人がいる。何かを運ぶのにこの天びん棒は便利な道具ではやっていたのだと思います。

S12：お店じゃなくて、左の方の塀の前に、裸の人が座っています。全部で３人。右の人はお椀を持って何かを食べています。

T：詳しく見ていますね。この人たちは何だろう。

S13：こじき、物もらい。

T：そうだね。食べ物をもらって食べているのだね。左の人は、どうしていますか。

S14：女の人からお金か何かをもらっています。

T:そうですね。この女の人が着ている物を見ると身分が高そうですね。だから、困っている人にめぐんでいるんでしょう。この女の人がいるのはどこですか。…門の前ですね。では、この建物は何でしょうか。

S15:坊さんがいるから、お寺だと思います。

T:そうだね。このりっぱな建物はお寺だね。お金のある人が貧しい人にお金や品物をあげることを喜捨といいます。そうすることで自分もお金やものから自由になれるという考え方です。そういう考え方があるから、この身分が高そうな女の人が乞食にものを恵んでいるのです。

S16：乞食の方もそれを知っていて、寺の門の前で待っているみたい。

中世社会では物乞い・乞食は賤視されながらも社会の中でその存在を認められていた。喜捨という行為には宗教的な意味もあった。それを生徒たちに理解してもらうのは難しいが、喜捨する側にも利益があると思われていた行為だということは説明したい。

**３．気づいたことー建物や通りのようすー**

S17:教科書（p.105）の「②井戸で水をくむ女」の左にいる女の人の前にあるのはトイレです。戸が開いてるし、内鍵みたいなものがついているから、入ってこれを閉めるんだよ。

T:教科書（p.105）には「裏側の四角い土地が、共同で使う場所でした」と書いてあるね。このトイレは、何軒くらいの人が使っているように見えるかな。

飲み水や生活用水を共同の井戸で汲み、４、５軒で屋外のトイレを共用するという生活は、今の生徒たちにはとても受け入れがたいくらしと感じられるだろう。しかし、飲み水と排泄物を共同で管理し衛生に配慮しながら都市でのくらしを維持していたことは気づかせたい。

つづいて、京の町のつくりに目を向けさせる。

T:店の裏が共同で使う場所になっていることを見ましたが、今度は店などの建物を詳しく見てみましょう。気づいたことや気になったことはありませんか。

S18:店が表通りに向いているのはわかるけど、店の人はどこに住んでいるのか、疑問です。

S19:お店だけ表通りにあって、住む家が別というのはお金がかかってしかたがない。表から見える部屋でだけ店にして、その裏に寝る部屋があったんじゃないかな。

現代の店舗兼住宅を知る生徒は少ないだろうが、都市部だから商店と住居はいっしょだろうという意見は理解できたようだ。

この授業は、教師が生徒たちに観察する箇所を指定して、その中から気づいたことを発表させ話し合うかたちで進めている。生徒一人ひとりが自分用のPCを持って実際に利用できる環境なら、生徒たちに注目した場所・関心を抱いた箇所を選ばせ、発表しあうかたちで授業を進めることもできる。

＊「ともに学ぶ人間の歴史」授業ブックレットNo.14掲載の拙稿「インターネットで見る中世の京都―『洛中洛外図屏風歴博甲本』高精密画像にアクセスしてみよう―」では、他の場所や女性たちをとり上げて紹介しています。参考にしていただければ幸いです。

# 研究者が語る「学び舎歴史教科書」

## 世界大の歴史を背景にした具体的な日本中世の歴史像

保立　道久（東京大学名誉教授）

中学校の歴史の教科書は、何よりもまず、中学生が自主的に読みたくなるようなものであってほしい。

### 「教科書風」から脱する試み

もちろん教科書は授業の後で記憶を整理するためにもあるのでバランスよい記述が必要である。ただ、そのため無味乾燥な記述になりがちである。文部科学省による「教科書検定」は学習指導要領にそって、さまざまな規則を作っているのでそれを促進しがちである。

また歴史の学界にも問題はある。ここ 20 年ほどの間に日本史の歴史像は面目を一新し、新しい研究によって分かりやすくなったことは多い。しかし、それを子どもに伝えるためには、時代や専門を異にする学者の間で、さらに議論して工夫を重ねなければならない。

そのためには、歴史の学者と小・中・高校の教師が熟議し、歴史学の新しい水準を大胆に取り入れて、歴史の授業の内容と順序編成をすべて組み立て直すことである。その議論の中で、教師が中心となって、教科書を執筆することである。

この教科書は、明らかにその第一歩である。こういう動きは教育行政も全面的に支援してほしい。

### たとえば歴史地震を取り上げること

私は「中世」を専門にしているが、この教科書の相談にのって感心したのは、各単元が具体的な話題から入って、それをうまく時代の特色につなげていることである。

相談をうけて、私はとくに災害・飢饉などの自然環境史の話題を提供した。たとえば 2011 年の東北沖大地震と同じ規模・類型の地震であった 869 年の陸奥沖地震である。そのほかにも地震災害の記述はふやしてもらった。これは今の日本にとってどうしても必要であるのみでなく、通史を考える上でも重要だと思う。

また私個人としては、飢饉の死者を弔う意味をもつものとして、室町時代の盆踊歌の史料を提供できたのもうれしいことだった(78 頁)。これまで応仁の乱は将軍や大名家の内紛で説明されていたが、この教科書では、それを藤木久志氏の学説にそって、飢えた民衆が京都に群集し、一揆が頻発する中で幕府が自己崩壊したと説明している。その荒れた世に響き渡る歌声を伝えることができたように思う。

第二に感心したのは、日本の歴史の流れが、世界大の歴史の動きのなかで説明されていることである。

たとえば、46 頁からは、イスラム世界の勃興の影響が東アジアに及ぶ中で平安時代が始まったという記述になっている。また 86 頁からは、世界的な資本の蓄積の時代、スペイン・ポルトガルが地球を西・東から回ってきて、ちょうどその時、日本で大量の銀が産出され、そういう世界経済のなかで時代が動いたという見事な記述である。

未来の希望を語ることは、しばしばむなしい。実際には事実にもとづいて同じ過去を確認することによって、人間は未来に入っていき、希望をもつことができるのだと思う。歴史の教科書は、中学生たちにとって何よりもそういうものであってほしい。

今回の教科書は二回目で内容の精選も進み、いよいよ読みやすくなっている。中学生が読むだけでなく、多くの方に読んでいただいて、教師たちの新しい試みを励ましてほしいと思う。

---

ほたて・みちひさ/1948 年生まれ。専攻は日本中世史。主著に『中世の国土高権と天皇・武家』(校倉書房、2015 年)、『日本史学』(人文書院、2015 年)など。

# 歴史が動く――声が聞こえる

大日方　純夫（早稲田大学名誉教授）

歴史と言えば、暗記中心という印象が強い。動かない歴史である。他方で、歴史にロマンや物語を求める傾向も強く、学校での歴史は毛嫌いされる。教科書の歴史は、干からびた歴史に見える。しかし、歴史とは、教科書とは、本当にそうしたものなのだろうか。

谷川俊太郎の「みみをすます」という詩に、「いつから　つづいてきたともしれぬ　ひとびとの　あしおとに　みみをすます」という一節がある。歴史のなかの人びとの足音や声に耳をすましてみたい。「うったえるこえ　おしえるこえ　めいれいするこえ　こばむこえ　あざけるこえ」が聞こえてくる。「きょうへとながれこむ あしたの　まだきこえない　おがわのせせらぎに　みみをすます」ことができる歴史的感性をみがきたい。

「学び舎」のこの本は、そうした感性を触発し、歴史意識を刺激する素材に満ちている。学校教育の現場から出発し、子どもたちの現実に足場をおいているからである。具体的な人、具体的な事柄、目に見える図像（絵・写真）から歴史のなかに入っていく工夫がこらされている。

## 小さな歴史と大きな歴史

人類の歴史の過程のなかで、それぞれの個人は、生まれてから死ぬまでの、ただ一回だけの、繰り返すことが不可能な歴史を生きてきた。全体の大きな歴史は、このような無数の個人の小さな歴史から成り立っている。富岡製糸場で製糸技術を学んだ横田英（p. 168）や、東京で学んだアイヌの青年マタイチ（p. 176）のように、みんな名前をもった個人として、時代のなかで生きていた（“名もない民衆”などどこにもいない）。教科書のなかに入って、そうした人びとの声に耳をすましてみたい。

## 歴史のなかに入る

大きな歴史は一つ一つの具体的な事実から成り立っている。歴史はすべて具体的である。ある場所の、ある出来事の、ある場面に入り込むことによって、時代の内側が見えてくる。上布田宿（かみふだじゅく、現在、東京都調布市）の郷学校に入り込んで教育の様子に触れ（p. 164）、府中町（同府中市）の称名寺（しょうみょうじ）で開かれた演説会から自由民権運動を考える（p. 170）。そして、少女たちとともに吹雪の野麦峠を越えてみる（p. 194）。教科書によって歴史の現場に立ち会いながら、大きな歴史の姿を生き生きととらえたい。

## 支配と抵抗に眼をこらす

一回だけの歴史を生きていたのは、もちろん日本の人びとだけではない。ニジェール川河口のオポボ王国の人びとはイギリスに支配され（p. 186）、日露戦争下の満州では、村を追われた人びとが寒さにふるえ、生活の場を失っていた（p. 188）。北京の天安門前で学生たちは日本の 21 カ条要求に抗議の声をあげ（p. 198）、女子学生柳寛順（ユグァンスン）は並川（ピョンチョン）の集会で「独立マンセー」と叫んだ（p. 202）。教科書で戦争と支配、従属と抵抗のありように眼をこらしたい。

## 歴史が動くことを実感する

人びとはよりよい暮らしや自由を求めて、それぞれのやり方で行動を起こした。府中の人びとは自由民権の演説に耳を傾け（p. 170）、五日市の人びとは自らの手で憲法案を起草した（p. 172）。富山県の女性たちは米屋に押しかけ（p. 204）、平塚らいてうは月のように生きることを拒否した（p. 206）。普通選挙を求める行進は、「奴隷から人間へ」と叫んだ（p. 208）。この教科書で、歴史が動くことを実感したい。

そうした歴史意識を育むことが、未来をつくる歴史認識には欠かせない。

---

おびなた・すみお/1950 年生まれ。専攻は日本近代史。主著に『自由民権期の社会』（敬文舎、2012 年）、『「主権国家」成立の内と外』（吉川弘文館、2016 年）など。

# イギリス産業革命ーネットでバーチャル旅行

鳥塚 義和（元高校教員）

## １．産業革命と「近代化」

「歴史総合」は、世界と日本の近現代史を「近代化」「大衆化」「グローバル化」の３つの視座・段階でとらえ、現在の社会や世界の仕組みを学習する。その際、資本主義社会の基本的な枠組みをつくった「産業革命」を取りあげることは不可避だ。

かつて二度イギリスに産業革命関連の近代化遺産を訪ねて旅をした。コロナ禍で旅行がままならない今、インターネットで資料館や博物館を訪ね、バーチャル旅行をしてみよう。

## ２．紡績工場は渓谷から

ペニン山脈の南麓を流れるダーヴェント川沿いに初期の紡績工場群が残っており、世界遺産に指定されている（http://www.derwentvalleymills.org/）。クロムフォード・ミルは、リチャード・アークライトが 1771 年に建てた“世界最初”の工場であり、水の豊富な渓谷にある。第一工場は五階建て（現在は三階建て）の大きな建物であり、となりの五階建ての倉庫との間にかつて大きな水車が動いていた（表紙写真①）。水車は残っていないが、水路には今も轟々と水が流れている。工場を見下ろす高台にアークライトの家があり、工場で働く労働者の集合住宅や原料・製品の輸送に使われた運河も近くにある。

歩いて 20 分ほど川をさかのぼると、1783 年にアークライトが建てたマッソン・ミルに着く。1991 年に操業が停止され、現在は博物館として公開されている。各種紡績機械や 1867 年製の力織機が動態保存されている。天井のシャフトが回転して、皮のベルトで織機に動力が伝えられ、機械のうなる音が工場内に響く。飛び杼が左右に行き交うのは猛スピードで見えないが、機械が止まると確かにシャトルがそこにある。当初水車のあった所や水路、ボイラー室、タービン室、電気室を見て廻ると、工場の動力が 18 世紀の水力から 19 世紀の蒸気力へ、そして 20 世紀の電力へと変化したことがわかる。

1784 年に建てられたクオリー・バンク・ミルは、マンチェスターの南 15ｋｍのスタイル郊外にある（https://www.nationaltrust.org.uk/visit/cheshire-greater-manchester/quarry-bank）。レンガ造五階建ての建物の中央の破風に大きな時計、屋根には鐘が設けられている。出勤時間を記録したタイムレコーダーも展示されており、工場制度が時間の管理に厳しかったことを物語る。

ここでは紡績機や織機を動かし、綿花から糸を紡ぎ、布に織るまでのすべての工程を実際に見せている。イギリスの資料館は、ただモノを展示するだけではなく、動かしてみせる。18 世紀当時の衣装を着た係員が説明をしながらジェニー紡績機で糸を紡いでみせる。教員に引率されてフランスから来た生徒たちがじっと見入っていた。ミュール紡績機が一度に数百本の糸を紡ぐさまは感動的である。

丘の上に、男女見習い児童の寄宿舎、労働者住宅、学校、教会も残っている。寄宿舎ではガイドが「ポリッジ（えん麦の粥）」という言葉をくり返していた。

時計と鐘

児童労働者の寄宿舎

## ３．蒸気機関の発明とマンチェスター

ロンドンでは、紅茶（表紙写真③）で一息入れてから見学へ。ロンドン科学博物館に入ると、吹きぬけの大ホールに８つの蒸気機関が並べて展示されている（https://www.sciencemuseum.org.uk/）。ニューコメンの巨大な蒸気機関から、ドールトン・ワットの 1777 年型、1788 年型、1797 年型、さらにその後改良されたものを順に見ていくと、小型化されてパワーがあがっていったようすがよくわかる。

蒸気機関が動力に使われると、工場は渓谷につくる必要がなくなり、都市に立地する。「綿の都」マン

チェスターを歩くと、アパートや商店が入る建物に「〇〇ミル」という名前がついているのを見かけた。紡績工場だった建物を改造して再利用しているのだ。

マンチェスターには、労働者の生活を伝える写真やたたかいの歴史を展示する人民歴史博物館がある（https://phm.org.uk/）。労働運動で使われた旗の展示や1819年の「ピーターールーの虐殺事件」をとりあげたコーナーもある。売店には、1851年に紡績工場が定めた21カ条の「規則」のコピーが売られていた。５分遅刻したら２ポンドの罰金、暴言をはいたり悪態をついたりしたら一度目は３ポンドの罰金、二度目は解雇などと記されている。

フリードリッヒ・エンゲルスは、1842年に父親が協同経営する会社で働くためにマンチェスターにやって来た。綿糸の商品取引を行なうロイヤル・イクスチェンジ（写真左）に毎日通っていた。そして、労働者居住区を取材してまわり、1845年『イギリスにおける労働者階級の状態』を著した。

## ４．運河と鉄道

マンチェスターで泊ったホテルは「キャナル・ストリート」にあり、すぐわきに幅４ｍほどのブリッジウォーター運河が流れていた。この運河は、ブリッジウォーター公が1761年にワースレイ炭坑の石炭をマンチェスターに運ぶために開削したイギリス最初の運河である。彼は次にマンチェスターとリヴァプールを結ぶ運河を開削した。運河は産業革命の進展とともに、各地を網の目のように結び、綿花や綿糸、綿織物が大量輸送されるようになった。

運河と運河が交差する地点、バートンを訪ねた。（http://www.penninewaterways.co.uk/bridgewater/bri30.htm）。マンチェスターシップ運河は常時川のように流れているが、小さいブリッジウォーター運河はその上を鉄橋で跨いでいる。橋は可動式であり、大きな船がシップ運河を通るときには通行の妨げにならないように、中央の軸を中心にして橋が90度回転してシップ運河と並行になる（表紙写真②）。

蒸気機関が実用化されると「鉄の馬」が出現する。馬のひくトロッコで石炭を運ぶ、その馬の代りに蒸気機関車を使おうというのだ。本格的に実用化したのは、スティーブンソン。1829年、最高時速47ｋｍを出して機関車コンクールで優勝した「ロケット号」の実物は、ロンドン科学博物館に展示されている。

1830年には、商品と乗客を輸送する本格的な鉄道がはじめてリヴァプール・マンチェスター間に開業した。運河の水運では36時間かかったが、汽車はわずか２時間弱で走った。今もこの路線は使われている。ディーゼルカーの普通列車がリヴァプールに近づくと減速する。難工事であったオリーブマウントの切通し部分とエッジ・ヒルのトンネルだ。開業当時のマンチェスター側の終着駅「リヴァプール・ロード駅」は、現在マンチェスター科学産業博物館として公開されている（https://www.scienceandindustrymuseum.org.uk/）。入口はレンガ造の倉庫、駅舎の壁には時計とベル。「プラネット号」（写真上）も見ることができる。

## ５．奴隷貿易とリヴァプール

リヴァプール港の繁栄は、17・18世紀の奴隷貿易と19世紀の三角貿易（綿布・アヘン・紅茶）がもたらした。マージーサイド海事博物館を見学した（https://www.liverpoolmuseums.org.uk/maritime-museum）。「七つの海」を支配した歴史、帆船やタイタニック号など各種の船の模型が展示されている。

当初は奴隷貿易に関する展示はなかったが、その後「負の遺産」に正面から向き合うことになり、2007年に同じ建物内に国際奴隷制博物館が開館した（https://www.liverpoolmuseums.org.uk/international-slavery-museum）。入口には西アフリカの４人の人形が置かれ、彼らの生活とその後の人生をたどっていく構成になっている。アフリカでの平和な生活、続いて奴隷狩りのシーンへ、そして奴隷船の中、暗い船倉に見学者も入って疑似体験をする。最後はアメリカでの売買と農園での奴隷労働である。

博物館の売店では、「奴隷と奴隷船」「リヴァプール・マンチェスター鉄道」などのテーマごとに新聞記事や絵、受取証などの実物教材をパッケージした教材集が販売されていた。

## ６．リンク集から世界へ

学び舎の教科書は、「工場で働く子どもたち」で産業革命を描いている（142、143頁）。また、特設ページ「歴史を体験する　綿から糸を紡ぐ」（158、159頁）では、紡錘車で糸を紡ぐ体験学習を紹介している。

学び舎のホームページには「リンク集」があり、450を超える日本と世界各地の博物館・資料館などのホームページにクリック一つでつながっている。授業づくりや生徒たちの調べ学習に役立つだろう。

学び舎 http://manabisha.com/ →リンク集

# 学び舎書籍案内

A5 判　700 円＋税

## 『「ともに学ぶ人間の歴史」授業ブックレット』

学び舎では、教科書「ともに学ぶ人間の歴史」の学習に活用していただけるよう、1 年に 3 回、授業ブックレットを発行しています。3 月に No.14 が発売されました。

☆生徒たちが、様々な問いを生み出す授業実践の紹介
☆「モノ」の活用や体験の授業実践の紹介
☆教科書のなかの歴史事項を専門的に深ぼりした紹介
☆教科書をもとにした平和体験学習の紹介

など、今すぐにでも実践してみようかと思える論考を掲載しています。一部、ご紹介します。

### 各ブックレット掲載の授業実践を一つずつ紹介

No.1 …職人歌合の世界 働く人びとの姿から学びを広げる
No.2 …おどる聖と念仏札 一遍の救済活動を考える
No.3 …刀より金銀の力 図版から読み取る元禄時代
No.4 …走れ、ぞう列車 子どもたちの活動と戦後の教育
No.5 …昔一揆、いま演説会 「おっぺけぺ節」と「民権数え歌」
No.6 …戦争が遠くなった君たちへ 戦時下の模擬家族
No.7 …奈良時代の人々の日記を書こう 中学生が良民と奴婢となって綴る
No.8 …室町時代の菅浦荘と大浦荘の戦い 中世を荘園から考える
No.9 …中学生とともに学んだ 3・1 運動
No.10…火山の麓、川のほとりから考える古墳時代像
No.11…平和の礎であの人に出会う
No.12…山本宣治と彼の生きた時代
No.13…3 月 11 日午後 2 時 46 分 大震災と原発事故
No.14…開国の意味を考える授業

### 「モノ」の活用や体験の授業実践紹介

No.2 …必ず成功する火おこしの技術
No.3 …糸を紡いでみよう
No.11…アジアの海をつなぐ琉球王国
No.5 …地域を歩く 用水路から地域の歴史を考える

### 世界史の授業実践紹介

No.1 …種が落ちないムギ ムギとブタ
No.10…ピラミッドのなぞ
No.6 …マゼラン船隊の世界一周 アジア人からの視点を模索する
No.7 …ラッコと「夷酋列像」 19 世紀の北太平洋世界とアイヌの人びと
No.3 …ガンディーの非暴力運動を考える
No.4 …あなたならどうする ナチのユダヤ人迫害問題を考える

### 教科書を専門的に深ぼりした論考紹介

No.4 …福岡市志賀島出土の金印
No.13…女帝から国母へ 女性と政治・社会
No.6 …朝鮮通信使の授業を構想するために
No.6 …「国病」の根を断ち「万民安穏」を願う 武州世直し一揆の具体像
No.3 …炎の中を逃げまどう ゲルニカ・重慶・日本本土
No.11…終わらぬ戦後 中国残留日本人と孫・ひ孫たち
No.11…足尾鉱毒事件の授業をどのように広げるか 戦後の鉱毒事件
No.7 …「教室」からみたハンセン病問題

ご紹介した以外にも、たくさんの実践例が掲載されています。HP をご覧ください。

ご注文は manabisha-ek@cap.ocn.ne.jp へ


発行● 株式会社　学び舎
住所● 〒190-0022
東京都立川市錦町3-1-3-605
TEL● 042-512-5960　FAX● 042-512-5961
E-mail● manabisha123@cronos.ocn.ne.jp
ホームページ● http://manabisha.com


(株)学び舎HP TOP　授業づくりリンク集